

日目上人の再誕・

再来説のまぢがい

廣 田 頼 道

昔から富士門流には、日目上人再誕・再来説というものがある。

広宣流布の暁には目師様が現われる。だから大丈夫だ——

何が大丈夫か分らないが、ずっと言われ続けている。私は違うと思う。

日目上人は、日蓮大聖人、日興上人の存在があり、あの時代にあつてこそ日目上人たり得たのであり、現代にあつては、日目上人の志を持たれた方の存在はあつたとしても、日目上人そのものの生れ変わりも人生も当然無いと考えるのである。

私達の生命の内証は不滅であり永遠であるけれども、今のこの時代と場所にいる自分は外相として滅する今だけのものではないのであります。つまり、一念三千の我が生命は瞬間瞬間に変化し、二度と同じ自分、同じ生命がないように、同じ人間の再来、同じ人生の生れかわ

りはないのであります。

それでは、再誕・再来ではなく、日目上人の精神と志を持たれた方が現代に現われたとしても、日目上人の志を育て、支え、守り、一切衆生に伝える日目上人の志の理解者がいなければ、日目上人の志は多くの人に足をひっぱられ、無視され、孤立し、その結果誰もその時代に日目上人の志が存在していたことを知ることなく、その時代は過ぎて行ってしまうのであります。

単なる「英雄待望論」や「世界救済論」で日目上人再誕、再来を語ることは、自分達一人一人の信仰における精進、布教の責任を破棄し、かつ転嫁していることと同じであります。

○未来を担う子供自体、日目上人の志を持った信心を行

ずる。
○育てる祖父母、両親も、日目上人の志を持った信心を行

ずる。
○見守る同信の人々も、日目上人の志を持った信心を行

ずる。
この三者一体になった時に、どなたが群を抜いて指導者として、日目上人の志を現代に生かし伝えることが出来る方であるか、全ての同信の人々が理解することが出

来るのであります。

日目上人の志とは、源は当然、日蓮大聖人が法一箇として体现された妙法であります。この妙法を萬難越えて信じ抜く、伝え抜く法華折伏破權門理の信心行体を貫くことを日目上人の志というのであります。

富士門全ての人々が、この日目上人の志を持つ信心こそが富士門本来の姿であって、安易な日目上人再誕、再来、英雄（日目上人）待望論は法華經の行者として一人一人が生きななければならない、自分自身の責任を否定するだけで、広宣流布というものを、ただ単に世界じゅうの人が御本尊を持つという人数での考えに固執して、「若有聞法者無一不成仏」の一切衆生成仏即ち広宣流布という本来の經文の内容を理解出来ない人間だということになるのであります。

日目上人だけに再誕があるというのであろうか。日興上人は、日蓮大聖人は日達上人は……………。

富士門の教議は、一人一人、十界互具の凡夫がいて、三界に関わりを持ち、一念三千の生命として、妙法を持ち成仏を遂げることが富士門の根幹であります。ならば「日目上人が生れ変わった様な強い志の方だ」ということはあっても、生れ変わりが現われるということは、日蓮大

聖人の教議を否定することになってしまっているのであります。

富士門には、日蓮大聖人の生れ替りも、日興上人の生れ替りも、日目上人の生れ替りも無いのが本来の教えなのであります。ましてや、その時代その時代の貫主が日蓮大聖人であらせられるという考え方は、再誕よりたちの悪い、何んの手続きも、辻褃合せもなく、ただ権力の絶対化と集権化、一切衆生を奴隷化、隷属化するだけのものであり、日蓮大聖人の法門を否定するだけの外道で淺墓な欲得の行為でしかないのであります。

日目上人再誕・再来説はほのぼのとしたり、うるわしい話ではなく詮じ詰めれば日蓮大聖人の仏法から外れるものであり、貫主が大聖人などという愚劣な思想を生み出す温床となってしまうのであり、自分達が行なわなければいけない責任を、日目上人に転嫁し、放棄する結果を生むことになるのであります。

それでも日目上人そのものが広宣流布の暁に再誕されるという方がいるならば、法門の裏付けを示して貰いたい。そして、広宣流布の暁ではなく、今の時代に日目上人が現われ、今の時代の問題を整理してもらいたい。広宣流布の暁では遅くて意味がない。